

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	長野県	事業実施主体	小谷村	地域再生計画名	美しい自然を活かし、笑顔で暮らせる村づくり計画
計画期間	令和2年度～令和6年度	評価責任者	小谷村総務課長（総務課企画財政係）		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値			最終目標値		中間評価	達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価
			基準年度		年度	中間実績		基準年度					
	指標1	観光・交流人口の増加	100,000人	R2	113,000人	R4	58,000人	127,000人	R7	×	指標総数	達成数	
	指標2	自然体験型プログラム受入客の増加	1,000人	R2	2,000人	R4	2,400人	3,200人	R7	○	3	1	
	指標3	観光地間等へのアクセス改善、観光周遊性の向上（雨飾高原～柵池高原）	60分	R2	—	—	—	50分	R7	—			ほぼ計画どおりの施工となっており、引き続き計画に則した整備をはかる。

②事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価
			計画	中間年度（R4）	最終実績見込み	
特別措置を適用して行う事業	村道整備事業		1,536	1,326	1,634m	最終実績見込みに対し、路線延長が不足する進捗率は81.15%である。村道伊折線については、想定外の湧水処理対応に不足の時間と経費を要し、事業進捗は若干遅れ気味である。（理由：盛土に使用する現場発生土が高含水であり、現場発生土では必要量が確保できないため、安定供給可能な盛土材の確保及び使用土量配分の見直し、排水計画の修正に伴工種・工程の見直しにより事業費および期間を増した（R6.1重変））
	林道整備事業		625	626	763m	計画に対し、路線延長から見る進捗率は82.04%であり、引き続き計画に則した整備をめざす。
その他の事業						
計画外で独自に実施した事業	観光振興事業	観光客誘客による宣伝事業	コロナ禍以前から冬季を中心に年々外国人旅行者の増加が目立つ傾向にある。パンフレットだけでなく、ネット誘客など毎年変化するニーズに合わせ、山岳観光、北アルプスの魅力を伝えるべき活動をさらに充実させる必要がある。外国人観光客にも配慮した周辺道整備も実施しながら宣伝誘客活動を促進していく。			
	森林づくり推進事業	森林セラピーロード周辺の緩衝帯整備	平成18年度に認定された「森林セラピー基地」により、森林セラピーガイド育成、セラピーツアーなど定着してきている。訪問者には森林の癒し効果を満喫してもらうことを目的に、森林セラピーロード（小谷村指定4箇所）を安全に周遊するため、森林周辺の緩衝帯整備を計画どおり実施している。			

③評価方法	村関係者及び有識者による評価検討を実施。
④中間評価の公表方法	村掲示板、公式サイト等にて公表予定
⑤計画全体の総合評価	本地域再生計画では、村内に存ずる2つの国立公園内の観光地間のアクセスの利便性向上や、緊急時の安全確保を図ることにより、豊富な林産資源の有効活用と自然を活かした体験プログラムを充実させる。これらによる観光誘客と受け入れる村民が明るく元気に暮らせるむらづくりを目的としている。令和2年から流行が始まった新型コロナウイルス感染症に伴う行動規制のため、観光誘客を目標とした指標1は大きな影響を受けることとなったが、指標2は三密が回避できる「屋外での自然体験プログラム」というニーズにマッチし、影響を受けないこととなった。一方で、村道、林道の整備を目標とした指標3については、最終年度の目標に向けて事業を進めている。令和5年5月から新型コロナウイルス感染症の規制が大幅に緩和され、インバウンドを中心に国内外からの観光客が戻りつつあることから、最終目標値へ向けて取組を進めて行くものである。

⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況		有りの場合その具体的内容
	地域再生計画の見直し（有○無○）		
	令和6年度予算要望額への反映（有○無○） 有りの場合の増減額 76,000 千円		

⑦今後の方針等に対する対応	●村道伊折線の事業期間の延長及び事業費の増額 事業期間：～令和5年度 → ～令和7年度へ延長 事業費：362,000千円 → 821,000千円へ増額 ●計画変更の経緯 当初計画 R2.1月 → 第1回軽変 R2.12月 → 第2回軽変 R3.11月 → 第3回軽変 R5.3月 → 第1回重変 R6.1（申請中）
---------------	---